

小中一貫教育検討委員会だより

令和7年9月【第6号】
長瀬町小中一貫教育検討委員会



©長瀬町

長瀬町小中一貫教育検討委員会の第6回会議を開催しました

長瀬町小中一貫教育検討委員会の第6回会議を令和7年8月28日（木）に開催しました。
今回の会議はワーキンググループを開催し、委員の皆様で長瀬町小中一貫教育に向けた思いをグループごとに討議していただきました。

今回討議していただいた課題は2つで、

- ①「一貫教育で期待できることはなんですか」
- ②「長瀬町の小中一貫校の設置形態」

について、3つのグループに分かれて討議を行いました。



Aグループ メンバーの意見

「一貫教育で期待できることはなんですか」

- ・9年間の一体的教育・教員の連携強化による教育効果の向上（特色ある教育）が期待できる。
- ・合同の学校行事（体育祭・文化祭など）を合同で行い人間関係を広げ、成長した自分をイメージできる。
- ・児童と生徒、小学校と中学校の職員がつながることで、子どもたちへの支援がより充実したものになるため、中1ギャップや不登校を減らすことができる。
- ・観光資源を活かした実践的なキャリア教育や、SDGs 観光教育など長瀬町の地域全体を学びの場とし、地域と連携して実社会とつながる学びを9年間継続的に行える。
- ・地域の特性を活かし、郷土愛と探究心を育てられる。

「長瀬町の小中一貫校の設置形態」

- ・施設一体型の小中一貫校が望ましい。
同一建物であれば連携がとりやすく費用も抑えられる。
- ・長期的にみると義務教育学校が望ましい。
- ・一貫教育で期待できることを実践するには、義務教育学校が適しているのではないかと思います。



©長瀬町

※この検討委員会だよりは、小中一貫教育の検討状況等について、町民の皆さまにお知らせするために発行しています。
会議資料等については、町ホームページをご覧ください。
検討委員会事務局（長瀬町教育委員会）



Bグループ メンバーの意見

「一貫教育で期待できることはなんですか」

- ・「豊かな自然体験を通しての長瀬を誇りに思う人づくり」をしたい。荒川や宝登山など環境を活かした「長瀬学」の学びをすることで実現化できると考える。
- ・一貫教育で9年間を見据えた長期的なカリキュラムが作成実行できる。具体的に、異年齢のつながりの強化、少ない人数だからこそその集団所属意識の向上、地域の教育資産（人、物、施設、観光資産）の活用で長瀬町全体で子どもたちを育てる意識が高まる。
- ・身近な自然体験、地域の産業や伝統文化を9年間通して学び、9年間一貫して行うことでテーマを深めたり、成長に応じた探求ができる。子どもたちの主体性を育みながら「郷土愛」も芽生える。



「長瀬町の小中一貫校の設置形態」

- ・中間報告書にも示されているように、財政面を考え、現在の長瀬中学校に義務教育学校として設置する形態が望ましい。
- ・交通の便が良い（野上駅から近い）、現中学校の敷地を活用し、小中同一校舎として設置することが望ましい。
- ・いろいろな公共施設をまとめた複合施設型小中学校の新設。

Cグループ メンバーの意見



「一貫教育で期待できることはなんですか」

- ・小中学校での年間で学ぶ内容・時間等の制限のある中で、新しいことにどの位の時間がとれるかわからないが、国際教育などの時間が増えることや、小中合同で夏休みなどを利用した防災キャンプなど体験学習などできるのではないかと期待できる。
- ・長瀬ならではの体験を通じて地域の方と交流し、ふるさとの誇りを育て守り発展させるための教育ができることを期待している。また低学年から英語教育を行い、外国人観光客に英語でツアーガイドができる英語力を育てる。

「長瀬町の小中一貫校の設置形態」

- ・施設一体型の義務教育学校が望ましい。
- ・小・中学校間の連携や接続が図れ、問題とされる中1ギャップの緩和、解消が期待できる。
- ・今後生徒数の減少が見込まれ、小中一貫型小・中学校にした場合は義務教育学校への移行が必要ではと考える。



